

えりも町議会

議会だより

令和7年2月1日

No.52



P2 令和6年度 第6回定例会
議長「年頭の挨拶」

P3~6 一般質問 6名7件 他

P7 全員協議会「笛舞小学校の今後について」

P8~9 所管事務調査

P10 この人に聞く

えりも新栄野球スポーツ少年団

監督 藤井 孝介 さん

避難道路開通 12月27日、午後2時、強風の中、待望の避難道路「高校通り線」が開通しました。指定避難所であるえりも高校へは、本町側からも歌別側からも通行が可能となり、避難時の渋滞も緩和される見込みです。ひとつ、津波災害への安心材料が増えました。



えりも町議会 第6回定例会

補正予算

◎令和6年度
一般会計（歳出）

・えりも町畜産飼料価格高騰対策支援給付金

100万円

肉用牛生産者の事業継続支援のため価格が高騰している飼料代を助成

・えりも町浮遊イワシ除去事業補助金

187万円

えりも港にイワシ大量漂着の際に漁協が実施した除去作業の経費

・観光費

136万円

地域おこし協力隊インターン制度を活用し国立公園化によるPR戦略の調査やキャンプ場の冬季アクティビティ等を開発するための費用

【年頭の挨拶】

えりも町議会議長 石川 昭彦



新春を迎えるにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年は元旦から石川県能登地方で大地震があり、新年を祝う気分も吹き飛んでしまうような年明けでしたが、今年は元旦から穏やかな日が続きました。

昨年のえりも町を振り返りますと、冬から春の漁は好調を維持したものの、夏のコンブ漁を前にしてえりも港に大量のイワシの群れが入り込みました。夏のコンブ漁と秋のサケ定置網漁は全町的に不漁となりましたが、タコ漁やオオズワイガニ、カレイ類、ハタハタなどは豊漁となり、年末を控えて一息つくことができました。

しかしながら、えりも町の産業の大宗をなす漁業としては赤潮による被害から抜け出したとはまだまだ言えず、引き続き回復、再生のために努力を続ける必要がありますと考えています。

徹底さが増している町内の畜産業は家畜の飼料や資材の高騰が続いており、さらに営農が難しくなりつつあります。今

後は飼養管理や販売方法について、改善点を探る必要があるかもしれません。

商工業等についても、少子高齢化や人口減少による売上減少や担い手不足などの問題を抱えており、我々議員や行政も、従来のマニュアルや視点にこだわらず新たな考え方を構築する必要があると思います。

また、一般の生活者からは物価高騰に加え、通院や買い物のために町内を移動する交通手段について、多くのご意見を「議員と語る会」などでいただいております。

議会としては、皆様の声をできるだけ行政に反映し、町内の産業と住民の安全安心を守るために全力を尽くしてまいります。引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

国立公園の中心となる襟裳岬を抱えるこの町が更に発展し、本年が皆様にとりまして健康で活気にあふれ、ご活躍の巳年となることを祈念し、ご挨拶といたします。



竹内孝文議員

相続放棄された 建物の対策は

問

適正な保存管理を 行うよう要請している

答

した場合でも建物の管理義務がある」とされるが、町内には相続放棄された建物は何件あるか。

【答弁】 町が把握している建物は5件である。

【竹内】 相続放棄された建物は、近隣住民に多大な迷惑と不安を与えている。

町は半ば放置されている建物に対し、どのような対策を考えているか。

【答弁】 所有者が特定できているものは電話や訪問で、遠方に住んでいる場合には、空き家の状況写真や文書を送付し、適正な保存管理を行うよう要請している。

【竹内】 町内各地区には空き家が目立ち、その中には相続放棄された建物が存在している。民法では「相続放棄

また、所有者が特定できないもの

や、特に危険回避を要する災害時及びその他緊急の案件については、消防により、必要最小限の応急処置を行っている。

【竹内】 町民には、財産放棄しても建物の管理義務が残る等の周知が必要ではないか。

【答弁】 本年4月から相続登記の義務が始まっているため、固定資産税納付書送付の際に、パンフレットやお知らせの周知をしていく。



相続を放棄しても建物の管理義務は残る

問 これからの介護計画は

答 ニーズ調査を踏まえ 柔軟に考えていく



嵯峨直樹議員

【嵯峨】 多くの町村で介護職が慢性的に不足し、近隣町の施設でも職員を確保できずに入所ベッド数を減らしたことがあった。

【答弁】 今年4月から相続登記の義務が始まっているため、固定資産税納付書送付の際に、パンフレットやお知らせの周知をしていく。

【答弁】 本年度からスタートした介護計画では、持続可能な運営に向けた人材の確保と業務改善の取り組みを基本目標としている。

【答弁】 本年度からスタートした介護計画では、持続可能な運営に向けた人材の確保と業務改善の取り組みを基本目標としている。



多くのスタッフが必要とされる介護現場

【嵯峨】 外国人介護職員を雇用する場合、町としてどのような対応を考えているのか。

【答弁】 外国人スタッフの導入はやまと苑でも検討が進められているが、労働力の確保や業務の軽減というメリツトの一方で、コミュニケーション面、生活習慣や文化の違いなどデメリットの要素もある。

【答弁】 外国人スタッフの導入はやまと苑でも検討が進められているが、労働力の確保や業務の軽減というメリツトの一方で、コミュニケーション面、生活習慣や文化の違いなどデメリットの要素もある。



高松亮裕議員

問 コンブ養殖の検討を

答 漁協や専門家と検討を進める

【高松】 5～6年ほど前からサケ漁は不漁が続く、今年もコンブ漁も不漁となった。地球温暖化による海水温の上昇が原因と言

われ、この現象は将来さらに深刻化するものと考えられる。

二大水産資源のコンブまで不漁が続けば、当町の経済が破綻してしまうといっても過言ではない。

コンブは多くの町民が携わり、大きな恩恵をもたらしている。将来に備え、各地の事例を調査したり、専門家の意見や昆布事業者の経験やアイデアを参考にしながら、当町に適した養殖方法を確立すること。

さらに、水温が上がっても育つ品種改良に取り組むことが必要な時期に来ているのではないか。

【答弁】 北海道のコンブ生産量は、30年前に比べて3分の1まで減少しているのに比べ、当町では3割程度の減産に留まっている。

【答弁】 多くの船が集まる近浦地区の漁場



多くの船が集まる近浦地区の漁場

る。

機械式雑海藻駆除やチェーン振りによる漁場の造成により、他地域に比べて天然資源の維持ができていないと考

えている。しかし、急速に進む地球温暖化がコンブ漁に影響を及ぼす可能性は否定できず、準備が重要だと考える。

町としてもコンブの減産は死活問題と理解し、コンブ養殖の可能性について漁協等関係機関や専門家と検討を進めていきたい。

【高松】 国の調査によると、全道の洋式トイレの割合は71・7%である。

小中高校のトイレの洋式化率は。

【答弁】 校舎・体育館を含め、学校全体で41・4%である。

①和式を嫌がりトイレを我慢する。
②和式では尿や便が飛散し不衛生。
③和式の使い方がわからない。
などの理由で洋式化を望む声が増えているが、

問 学校トイレの洋式化・暖房化を

答 アンケートを実施し計画的・段階的に進める

【高松】 特別に災害時の避難所に指定されている学校や公共施設では、高齢者や障がい者も使用する。洋式化・暖房化をはじめ、手すりの設置、バリアフリー化、床の乾式化なども検討する必要があると思うが。

【高松】 特別に災害時の避難所に指定されている学校や公共施設では、高齢者や障がい者も使用する。洋式化・暖房化をはじめ、手すりの設置、バリアフリー化、床の乾式化なども検討する必要があると思うが。

【答弁】 11月に開催された子ども議会でも、えりも高校生が、避難所であるえりも高校の洋式トイレ設置の必要性について質問した。高齢者や障がい者などの利便性向上の観点からも洋式化は必要と

【答弁】 実際には使用する当事者の意見は重要であり、アンケートを実施し、財政面の課題もあるが計画的・段階的に進めていきたい。



福祉避難所となるえりも高校校舎の洋式化率(教職員用を除く)は29%。7つのうち2つしか洋式がない割合



中野公浩議員

地球温暖化防止活動 の取り組みを

電気自動車の導入を 検討する

問

答

あり公共施設や民家のそばへの建設は難しい」「太陽光発電は強風により施設上部にパネルを設置することは困難である」と答えている。小型風力発電であれば騒音の問題がないのではないか。

耐用年数が短いなどの課題がある。公共施設の建て替えや新設の場合には、パネル等の設置を前提とした設計になり、強風にも耐えられる構造等にする事ができるのでは検討していきたい。

【答弁】 小型風力発電の騒音に関する問題が、これまでに複数件発生している。

小型風力発電は、住宅等からの距離を250m以上離すよう規制しており、住宅等の近くへの建設は難しい。

【中野】 太陽光パネルは薄型で軽量のタイプもあり建物の側面に設置できるのではないか。

【中野】 9月の定例会の一般質問で、地球温暖化防止活動として公共施設のエネルギーに風力発電や太陽光発電などを活用できないか質問した。

【答弁】 薄型軽量の太陽光パネルは、通常のパネルに比べて発電量が少ない、製品単価が高い、



風力発電は民家から250メートル以上離さなければならない

【中野】 9月にゼロカーボンシティ宣言を公表しているが、公用車を電気自動車へ切り替える考えはないか。

【答弁】 ゼロカーボンを実現するために、今後公用車を入れ替える際には、電気自動車やプラグインハイブリッド車の導入を検討したい。

給付金対象世帯の拡大を

町内の経済状況を踏まえ 検討していく

答

【大場】 現在も燃料価格や電気料金はまだまだに高く、食料品の値上がりは続き、消費者にとって大変厳しい状況が続いている。

国や町では対策として、住民税非課税世帯に対し給付金を支給する政策を行っている。一方、収入もあり納税もしている給付金の対象にはならないが、物価の高騰に加え税や社会保険料の負担が強まり、

生活環境が厳しくなっている中間所得層も多数存在している。厳しい状況の中、働き納税している中間所得層が不公平感なく労働意欲を削がないよう、えりも町独自の給付対象を拡大した支援策の検討はできないか。

【答弁】 これまでも町の独自支援策として「住民税所得割非課税世帯給付金」支給世帯の対象拡大や、水道未接続世帯には水道料金減免と同額の現金給付を行ったほか、町民一人当た

り1万円分の応援券を配布する事業を複数回行ってきた。

しかし、こうした町独自の支援を継続して行うには財源の問題があり、仮に、給付金の支給対象を全世帯まで拡大すると数千円単位の予算規模となり、給付を行うのは厳しい状況である。

今後は、国の経済対策メニューも参照し、現金給付に限定せず町内の経済状況や近隣町の動向も踏まえ、支援内容等を検討していく。

1月23日の議会で2月上旬から第3弾の応援商品券を配布することが決定





上野陽司議員

町政の評価と 今後の方針は

問

答

町政執行に向けて 新たな決意

【上野】 「子どもと高齢者にやさしいまちづくり」をスローガンとし、町政を執行してきた大西町政の2期目も3年半が経過した。これまでの行財政運営をどのように評価しているか。また、今後の町政執行は。

【答弁】

2期目は、コロナ禍の令和3年6月に始まり、その年の9月に赤潮による漁業被害が発生したため、漁協や漁業者を支援してきた。また、庶野小学校の完全給食の実施、中学生までの医療費の無償化で保護者負担を軽減できたと思っている。

防災では、防災無線の全面改修を実施、高校通り線も完成させることができた。次年度には、目黒地区の避難所整備を計画している。町の財政は、8年前と比べ積立金を約14億円増額することができた。今後、国立公園や映画製作による観光振興を推進していく。

主要産業である漁業は、秋サケ・真ツブ・ウニの資源回復の取り組みや昆布生産の対策等を漁協や関連機関と連携し推進していく。畜産業は、ヨーネ病や飼料の高騰等が大きく経営に影響を及ぼしているため対策を検討していく。

地域公共交通は、JRバスやタクシーの運行体系に注視し、えりも町地域公共交通会議等で公共ライドシェアなどの検討も必要と考えている。

教育は、小中学校の多子家庭児童2人目以降の給食費無償化、えりも高校の給食化の検討、そして、えりも高校の存続に向け積極的に取り組む考えでいる。これまでの8年間で、見つめ直しながら、町民が住んで良かったと思えるまちづくりを目指し、今一度、町政執行に向けての決意を新たにしているところである。



3期目に向けて決意を表明する大西町長

えりも町森林・林業活性化推進議員連盟植樹事業

11月1日、庶野さくら公園において庶野桜保存会（横山榮一会長）の協力のもと「えりも町森林・林業活性化推進議員連盟（林活議連）」の植樹を行いました。

この日は肌寒い中でしたが、50cm程度の深さの穴を2か所掘り、約3mに育った桜の苗木2本を植樹しました。

植栽した桜は、数年後には花を咲かせるということで、全員で無事育つよう祈りました。

林活議連では、毎年植樹を行っており、昨年も庶野さくら公園に桜の苗木2本を植えました。



植えた桜を背に庶野桜保存会の皆さんと記念撮影

全員協議会

令和6年12月3日

※紙面の都合により
抜粋して掲載

笛舞小学校の今後について

1 児童数及び学級数の推移

- ・児童数は、令和6年度の18名をピークに、令和12年度は5名の見込みである。
- ・学級数は、令和8年度まで4学級（うち特別支援1学級）で、令和9年度以降は3学級の見込みである。

年 度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
児童数	18	17	15	11	8	6	5
学級数	4	4	4	3	3	3	3

2 教員数の推移

- ・教職員の配置は、事務職員が令和9年度から、養護教諭は令和10年度から配置されない見込みである。

3 経過

①事前協議（令和5年11月7日）

P T Aや自治会、学校運営協議会委員らに上記1・2を説明し、笛舞小学校の今後を検討するため「極小規模校に係る地域懇談会」を発足することに決定した。

②第1回地域懇談会（令和5年12月18日）

事前協議内容を「地域懇談会」で説明し、P T Aや自治会等の総会などで協議をしてもらい、次回、意見集約をすることになった。

③第2回地域懇談会（令和6年6月26日）

意見集約の結果が報告され「寂しい思いはあるが子どもたちのことを考えると閉校は致し方ない」などの意見が大勢を占めた。

時期は、広野小学校の交流の関係もあり、令和8年度閉校、令和9年度にえりも小学校へ統合することで意思決定された。

④町教育委員会へ要望書の提出（令和6年7月31日）

⑤教育委員会の協議（令和6年8月26日）

地域懇談会からの要望書の提出を受けて、笛舞小学校の今後を協議した。



旧東洋小より10年遅い、平成5年に完成した笛舞小学校の校舎

地域懇談会の意向に沿って、笛舞小学校を令和8年度に閉校、令和9年度にえりも小学校に統合することで進めていくことを決定した。

質 疑

問 校舎の後利用はどのように進めるのか。

答 閉校まで2年間の準備期間があり、地域の皆さんの意見も聞きながら慎重に対応していく。東洋小とは立地条件や老朽化の違いがあり、いろいろな意見が出てくると思っている。

問 閉校は、地域の発案で決まるのか、行政主導なのか。

答 決定は行政だが、行政からのトップダウンではなく、地域の意向を尊重して進めてきた。

不登校児童生徒の現状と対策について

当町では本年度、小・中学校に数人の不登校児童生徒が存在し、その要因の多くは、無気力や不安といった本人に関するものであった。

対策として、道教委のスクールカウンセラー活用事業や校内生徒指導委員会等の各種対策会議、児童相談所などの専門機関との連携、教職員向け研修などが行われている。

また、対象となる児童生徒へのリモート授業、家庭訪問、保護者との情報交換、教師間の情報共有による早期発見など、様々な対応を行っている。

特に、家庭訪問は不登校の原因や家庭環境を把握する上で大変重要であり、複数人による訪問で正しい情報を共有することが望ましいと考える。

教育委員会は、今後に向けた取り組みとして、以下の3点を挙げている。

- ①学校と児童生徒及び保護者との連携と信頼関係の構築
- ②タブレットを活用した相談体制の構築（小中全校）
- ③校内教育支援センター設置の検討

これらの取り組みを確実に進め、不登校児童生徒への速やかな支援に繋げてほしい。



2学期の終業式を数日後に控え登校するえりも小学校児童

日高山脈襟裳十勝国立公園化の取り組みについて

国立公園は、自然環境保護の面だけでなく、観光資源としての面でも大きな価値がある。当町の今後の取り組みを確認するために調査を行った。

すでに実施している施策は、庁舎のたれ幕、灯台公園の横断幕、PRのぼりの作成があり、イベントとして灯台まつりの花火大会も国立公園化記念として催されている。

今後、環境省が主体となって国立公園ビジョンや管理運営計画が策定されるが、町としては、百人浜キャンプ場の宿泊棟新設や既存施設の改修に取り組んでいき、さらに悲恋沼遊歩道の改修、風の館展示スペースのリニューアル、PR看板の改修なども行う予定である。

国立公園化によって多くの観光客が訪れ、施設を利用することが期待されるが、襟裳岬や百人浜周辺の道路は草刈りなどを行い、訪れた人が心地よく過ごせるようにしてほしい。

また、キャンプ場の利用料金が他自治体と比べて安いとのことだが、将来的に値上げをするなら、トイレなど古い設備の改善と並行して検討していくべきと考える。



百人浜キャンプ場の現在ある宿泊棟。新たな宿泊棟を設置し、冬季の利用も検討している

所管事務調査

総務文教常任委員会
 委員長 橋本維広
 副委員長 神田 修
 委員 川村一治
 竹内孝文
 大場文裕

産業民生常任委員会
 委員長 高松亮裕
 副委員長 中野公浩
 委員 成田一人
 上野陽司
 嵯峨直樹
 議長 石川昭彦

調査日 令和6年10月22日（火）

旧東洋小学校の現状について

旧東洋小学校は、令和4年12月に発生した暴風によって、屋上防水シートの一部が剥がれる被害を受けている。その後の経過と校舎の現状を確認するため、調査を行った。

屋上防水シートは、本年2月の暴風によってさらに剥がれ、覆っていたブルーシートと共にすべて撤去されていた。

下地がむき出しのため数か所で雨漏りが発生し、今後増えていくものと予想される。

本施設の後利用については、令和5年3月末まで公募され、太陽光発電などの再生可能エネルギー施設や昆布倉庫としての問い合わせはあったが、応募自体はなかったようである。

教育委員会としては、教育財産から普通財産への移管を検討しているようだが、その後に施設をどうしていくのか、さまざまな方法を考えてほしい。



旧東洋小学校の屋上では防水シートが広い範囲で剥がれ、下地のコンクリートがむきだしになっている

灯台公園の新設トイレについて

本年完成した灯台公園のトイレについて調査した。

新たな施設は、建て替え前のトイレよりも充実した機能が備わっており、おむつ交換台やフィッティングボードが多目的・女子・男子トイレに設置され、多目的トイレはオストメイトにも対応している。

利用者にとって喜ばしい機能が追加されているが、便座クリーナーやトイレに異常があった際の連絡先表示もあればよいと思う。さらに、防犯や施設保全の観点から、トイレやステージが映る位置に防犯カメラを設置することも検討していただきたい。

国立公園に指定され、観光客の増加とともに本施設が利用される機会も多くなる。利用者が気持ちよく使える施設が望ましいので、それが維持されるような清掃体制を整えてほしい。



新設されたトイレ前駐車場で充実した新機能などについて説明を受ける

この人に聞く

えりも新栄野球
スポーツ少年団
監督

ふじい こうすけ
藤井 孝介さん (45)



その後、監督が引退し引き継ぐことを決めました。

▼現在の団員数は

小学1年生から6年生まで22名。夏は週6日、冬は週4日、放課後午後4時から2時間ほど練習します。

▼指導方針は

練習も練習以外でも素早く行動できるように指導していきたいと思っています。

まずは、技術よりも行動力や精神面の成長が大切と考えるので、挨拶などもしっかりできるように心がけて指導しています。

普段の練習が厳しい分、試合ではのびのび楽しくプレーしてもらいたいです。

▼最近のチーム成績は

昨年は、全日本学童軟式野球大会の日高大会で優勝し、全道大会ベスト8まで勝ち進むことができました。個人では、北海道チャンピオンシップ協会の選拔選手として、チームから4名の

の団員が選ばれました。

▼監督のやりがいは

試合に勝つことも嬉しいですが、子どもたちが野球を通じて成長していく姿を見られるのが一番嬉しい。

卒団した子どもたちが野球を続けて帰省した際に、近況報告のため家に寄ってくれると、22年間監督を続けてきてよかったとつくづく思います。

▼これからの目標は

これから6年生が卒団し、新体制になります。まずは、一つひとつ試合に勝つ喜びを知って、いろいろな大会で



グラウンドが使用できない冬季間に町民体育館で熱心に指導する藤井さん

少しでも上位を目指したいです。また、個人的な夢として、いつかこの少年団からプロ野球選手が生まれることを期待しています。

(取材 嵯峨・大場)

議会の動き

11月 1日	えりも町林活議連植樹 (庶野さくら公園)
11月25日	第14回子ども議会
12月 3日	全員協議会
12月 6日	議会運営委員会
12月13日	全員協議会 第6回定例会 広報広聴常任委員会
1月 5日	えりも町消防出初式
1月 9日	広報広聴常任委員会
1月12日	えりも町二十歳を祝う式典
1月22日	広報広聴常任委員会

議員雑感

今年、昭和100年。当時の町の出来事を調べてみました。

- ・昭和3年、市街電話開通。
- ・同4年、静内く幌泉間定期自動車の運行。
- ・同6年、様似く幌泉間バス運行。
- ・同9年、黄金道路の竣工。
- ・同10年、第4回国勢調査、世帯人口1092戸6507人。

現在、町の人口は1992世帯4064人。また、全道的にも定期バスの減便等が叫ばれており、100年前と真逆のことが読み取れます。

興味のある方は一度、福祉センターの図書室で町史を読んでみてはと思います。

(竹内)

広報広聴常任委員会

- 委員長 竹内 孝文
- 副委員長 上野 陽司
- 委員 高松 亮裕
- 中野 公浩
- 嵯峨 直樹
- 大場 文裕